

環境まづくり 会報

30

題字/福田博子 編集・発行/入間市環境まづくり会議 2020年3月6日発行

エスディジーズ

— SDGsについて ③ —



会長
木内 勝司

SDGs（持続可能な開発目標）についての話題が増え、皆さんも目にする機会が増えているのではと思います。私たちの暮らしにつながるこの目標は誰でも取り組むことができるもので、環境、経済、社会の3つをバランスよく成り立たせることを目指しています。

SDGsは、様々な問題がつながっていることに注目し、まとめて考えながら解決しようとしています。食べ物を無駄にしない、ごみを減らす、買い物の仕方を変える、節電や節水をするなど、

自分たちの暮らしを見つめ直すことが世界共通の目標の達成に役立ちます。わかりやすいのが、大量生産、大量消費、大量廃棄の問題です。食べ物や衣服など安くたくさん作るために、働く人や資源が大切にされないこと、商品が簡単に捨てられることがあります。ごみを焼いて処分すれば地球温暖化につながるガスが出るし、埋め立て処分にも限りがあるといった問題があります。こうした問題はつくる責任、使う責任（目標12）、温暖化対策（目標13）です。ほかにも海や陸の環境を守る（目標14、15）などとも関係します。

こうしたことを具体的に入間市の問題と結びつけて考えることが有効だと思えます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



第8回 いるま環境フェア



オープニングセレモニーの様子

いるま環境フェア実行委員会、入間市環境まちづくり会議、入間市が主催の「第8回いるま環境フェア」が、10月6日（日）に入間市産業文化センターで開催されました。

例年、オープニングセレモニーを行っているホールが、耐震工事のため、今回は1階和室での式典となりました。

となりました。入場者参加団体とも畳に座って距離の近い親しみやすい雰囲気となりました。

ホールが使用できなかったため今回は1階和室、中庭、2階学習室、集会室での開催となりましたが、参加41団体、入場者約800名と多くの市民が環境について考え、体験し、お互いの交

流も図るといふ中身の濃いものになりました。特に、入間市内に拠点を置く企業・入間市工業会の参加は年々増加していて、これを楽しみに来場する市民も増えていきます。入間市で環境に関する活動を行っている市民団体も活動内容やその成果を展示したり、説明したりして活動を多くの人に知ってもらいたい機会となっています。そろいのジャケットやユニフォームで参加する人もあって、展示会場も盛り上がりました。

お昼は、中庭で環境に配慮した模擬店を利用する人が多く出展者にも利用でき、好評でした。

環境にやさしいCaféでは環境アドバイザーによるミニ講座と認証珈琲の試飲、入間市の自然の写真展示がありました。今回は、ホールイベントが行えなかったため講座に参加する人が多く、常に満席の状態でした。



環境にやさしいCafé



模擬店

1階の和室では、子供のための環境体験を盛り込んだワークショップやマジックショーが行われました。

子供も大人も楽しく、滞在時間の長いことが環境フェアの特徴です。より多くのおみなさんが入間市の環境情報や理解を深める機会にしていききたいと思います。

（川名千鶴子 記）



展示コーナー



11月16日(土)、集合場所の文化創造アトリエ・アミーゴ上空には、昨年が続いて吸い込まれるような青空が広がっていました。しかしながら今回の環境ウォーキングは、この日の開催

環境ウォーキング

までに紆余曲折がありました。夏には猛暑の中、運営委員3人でコースを下見、入間川の遊歩道をメインとしたコースを設定しました。ところが10月12日に猛威をふるった台風19号の影響で、遊歩道は至るところで被害を受け、当初予定したコースを変更せざるを得ないばかりか、一時は開催そのものが危ぶまれてきました。直前に二度の下見を重ねた結果、コースを一部変更した上で開催の運びとなりました。この日は見事に晴れ渡った空の下、アミーゴから圏央道の橋脚まで入間川に沿って遊歩道を下りました。コンクリートの基礎ごともついでに倒されたフェンス、大きく削られたアスファルト。参加者は、水の威力を目の当たりにし、改めて自然の脅威を心に刻んだことでしょう。また、河川の専門家である木内会長から河川と人の関わり合いの歴史や治水の変遷など、道々「川の教室」をはさみながらのウォーキングとなりました。

木内会長による川の教室の様子

一行は入間川を離れ、高倉の茶畑や農園を巡ってまちや公園にゴール。芋煮を楽しみながらのセレモニーでは、恒例となった万歩計クイズや環境クイズで、ウォーキングを振り返りました。

(新井 格 記)

水害で倒れた車止め



リニアモーターカーの仕組みを実演



東芝未来科学館(川崎市)は「人と科学のふれあい」をテーマに、環境、エネルギー、社会インフラ、半導体など近未来の最先端技術を見学できました。しかし、少し難しいと感じた人が多かったようです。ただ「超電動」での実験説明では分かり易い説明で、実際のリニア新幹線を見たいと思った方が多くいました。歴史コーナーでは日本最初のワードプロセッサ、洗濯機、電子レンジなど歴史的な物を多くみることが出来ました。

東芝未来科学館 / JAL工場

見学会



JAL工場(羽田)は映像などで航空機について学びました。整備士、運航乗務員、客室乗務員、機体整備などが紹介されました。また、巨大な格納庫の中では整備中の大きな航空機を間近に見学することができました。元CA(客室乗務員)の笑顔で親切で丁寧な説明には、「さすが元CA」と大好評でした。

(本多 進 記)



株式会社奥井組
水耕栽培で育てられたレタス

市内企業見学会

入間市内で環境活動を含め活躍される企業2社に協力を頂き、9月19日（木）に参加者22名にて市内企業見学会を行いました。市内企業の環境への取り組みを広く理解して貰うというもので、第1回目の企画です。

1社目は株式会社奥井組。ロケットブースタをはじめ大型機器の運輸、機工、プラント、物流等幅広く活躍され、環境面では建屋の遮熱塗装工事、自社内での水耕栽培、根圏栽培に取り組まれています。

2社目はカネパッケージ株式会社。包装設計や梱包材製造、販売、環境面ではマングローブの植林活動、卵の殻を利用したバイオマスプラスチック事業に取り組まれています。



カネパッケージ株式会社
梱包材の自由落下試験の様子

参加者からは「市内にこんな素晴らしい企業があったなんて驚きです。良い1日になりました」、「大変興味深く感じました。またの企画をお願いします」等の感想をいただきました。（岡村季洋 記）

会報30号発行によせて

環境まちづくり会議会報が、2001年12月1日に創刊され今回で30号になりました。

振り返ってみますと、創刊当初からごみ減量、温暖化防止、環境ウォーキングに関する記事が多く掲載されてきました。これらの情報は、今後も益々重要になってくるものと思います。会員並びに市民への環境情報の発信元となるよう引き続き努めてまいります。（森谷秀一 記）



会報1号～3号

2019年度の事業報告

5月	●総会、講演会 【講師：かわごえ環境ネット 小瀬博之氏】 ●ハツ場ダム見学会
7月	●路上喫煙防止キャンペーン参加
9月	●市内企業見学会 ●第8回いるま環境フェア開催
10月	●ごみ減量・マイバック推進キャンペーン参加 ●入間万燈まつり会場のごみ拾い実施
11月	●環境ウォーキング開催 ●東芝未来科学館・JAL工場見学会
3月	●会報発行

実施
しています

エコライフDAY活動

7月～9月 及び 12月～2月

実施
しています

ごみひろい隊活動

毎月第2日曜日

詳しくは、ホームページの「ごみひろい隊」をご覧ください

入間市環境まちづくり会議

検索

会員数410（人・団体）

入間市環境まちづくり会議

事務局 入間市役所環境経済部環境課

TEL 04-2964-1111(代表) 内線 4221 または 4222

FAX 04-2965-0232

URL <http://www.kankyo-iruma.net/>